

ソフトウェア品質管理研究会 特別講義 レポート

作成日: 2023年10月13日

書記氏名: 松波 知典

日時	2023年10月13日(金) 9:50 ~ 12:00
会場	(一財)日本科学技術連盟・東高円寺ビル 地下1階講堂 *ハイブリッド開催
テーマ	国際共通語としての日本文/英文ライティングを目指す - 英語を見ると日本語が見えてくる
講師名・所属	中村 哲三 氏 (株式会社エレクトロスイスジャパン)
司会者	栗田 太郎 氏 (ソニー株式会社)
アジェンダ	<p>ライティングで注意すべき点</p> <ul style="list-style-type: none">・日本文と英文の違いを意識する一文に含まれる情報量の違い・必須情報と随意情報を分ける・わかりやすく、翻訳しやすい日本語を考える・社会に氾濫するカタカナ語 = ほぼ和製英語(動詞も含む)・専門用語を使いこなすことで生じる問題・概念の違いから生じるコミュニケーションギャップ・思いがけないところで生じる差別表現・一定した視点で書く・これまで学習したことがなかった句読法や表記法 <p>ビジネス文の書き方は英語と日本語で異なる?—テクニカルライティング</p> <ul style="list-style-type: none">・日本語の「段落」と英語の「パラグラフ」は異なる・言いたいことを明示する—タイトル、トピック文とサポート文・説明する順序に注意する・パラレリズム、遷移語、キーワード、箇条書きなどのツールを活用する・行為は動詞で表現する—行為を名詞化(Nominalization)しない・修飾関係を明示して、複数の解釈ができないようにする
アブストラクト	<p>ライティングは、あらゆる分野の土台になる基礎技術です。たとえ、研究成果が優れていても、その優れた点をライティングで読者に伝えきれなければ、読者から認めてもらえません。あなたの研究成果が全世界の読者に適切に伝わるように日本文や英文を書く必要があります。そのためには、英語の特徴を活かして日本語を書くことを心がけ、日本文も含めて国際共通語として伝わるようなライティングを心がけます。まず英語と日本語の概念の違いなど言葉の問題を整理して、英文と日本文のテクニカルライティング力を身につけましょう。</p>

第5回の特別講義では、「国際共通語としての日本文/英文ライティングを目指す」と題して、中村氏よりご講義をいただきました。説得力がある文章を書くため必要な知識として、英語と日本語の違いについて説明いただき、その違いを踏まえた上で、英文の論理構成を活用するというライティング技法について講演をいただきました。

◆冒頭、中村氏より自己紹介がありました。

- Electrosuisse Japan
英語版取扱説明書評価、改善
- 東洋大学社会学部 非常勤講師
- テクニカルコミュニケーター協会 理事
- ISO TC (Language Resources)
言語共通のライティングルールを国際規格化
- ASD-STE100 (AeroSpace & Defence Simplified English)

<ライティングで注意すべき点>

◆日本文と英文の違いを意識する—文に含まれる情報量の違い

- 日本語：関係性の言語。聞き手には理解する責任が求められる。
英語：論理的な説明責任。話し手には、聞き手を理解させる責任
- ホールの連続相
日本語はHigh context (コンテキストに過度に依存する。声のトーン、表情、黙示的)
- 欧米の言語に比べて情報量の少ない日本語
例：日本語には名詞の冠詞や複数形がないが、英語は冠詞や複数形により短文でも表現できる内容が多い。

◆概念の違いから生じるコミュニケーションギャップ

- 空間の概念
日本語は左右→上下
欧米は上下→左右
→語順が異なる (左右・南北・前後・長短など)
- 色彩 (太陽の色)
欧米は黄色
日本は赤
→色彩に対する感情が国や地域によって異なる
- 発話に至る前に心の中で考える Mentalese の文化的な差
→英語では聞き手主体。日本語は話し手中心。
日本語：私が行く
英語：相手のところに行く (COME を使用する)
※come と go を使い分けている

◆社会に氾濫するカタカナ語 = ほぼ和製英語(動詞も含む)

- 和製英語
NG、サイドブレーキ、リフォーム、レジ、ハイタッチ、スキンシップ、マンション
- 和製洋語
アルバイト、テーマ、ピンセット
※多くのカタカナ洋語はそのままでは使えない
- カタカナ語が適切かどうかはWEB 検索 (画像検索) により調べることができる
ヒット数が多いからと言って、ok という訳ではない
(skinship を画像検索した結果、東アジアの画像が多数ヒットした)
ヒットした画像がどこの国の言語なのかも考慮する必要がある

◆専門用語を使いこなすことで生じる問題

- 多くの人に理解してもらいたいなら専門用語は使用しない (わかりやすく言い換える)
古くなり死語となったもの

新しすぎて普及していないもの
専門的であり難解なもの
特定の業種・企業・学校だけで通じるもの

- web の画像とヒット件数から判断する
- ゲルマン語源かラテン語源か
ゲルマン：生活基本用語、誰でも理解できる
ラテン：文化的用語、学術的/芸術的

◆思いがけないところで生じる差別表現

- 性別を表す用語
主語は複数形表現が好ましい
主語を単数形表現していた時に、単数扱いの their を使用することもできる
- 未婚/既婚を表す用語
性別を表さない用語と使うとよい

◆一定した視点で書く

- 直示 (ダイクシス)
基準座標系または参照系
見方によって変わる視点
情報の受け手を中心に考える
視点を決めたら勝手に変えない

◆わかりやすく、翻訳しやすい日本語を考える

- 論理的でわかりやすいライティングルールに従う
- ビジネス文であれば、全世界に通用する論理的なテクニカルライティングで考える
- これからのライティング、国際共通語 ISO24620-4 : 2023
- 言葉として発話する前に「心の中の言語」で考える
- 開発文書に出てくる翻訳者を悩ませる日本語表現
用語の揺れ
難しいメタファー
あいまいな接尾辞
冗長な表現
漢語化表現 など

◆これまで学習したことがなかった句読法や表記法

- カンマ：区切り
先行詞の終わりと主節の始まりを分けて、明示する
英語ネイティブはよくカンマを省略する
→国際共通語を目指すのであれば、カンマは省略しない
- コロン
後に続くものを紹介する
「つまり」「すなわち」の役割を果たす
- セミコロン
2つの独立した文を結び付ける。対比や同格などの関係を示す。
項目を区切る。カンマ以外に区切りが必要な時
遷移語の副詞と一緒に使う

<ビジネス文の書き方は英語と日本語で異なる？—テクニカルライティング>

◆ビジネス文

- 人に効率的、効果的に情報を伝える
- 必要に応じてレスポンスさせる
- 説明文は言語によって異なるわけではない

◆新常態でこそ問われる論理性

- ・対面ではなくテレワークが増加する社会
 - ・新常態下で広範囲に求められる説明責任
- テクニカルライティングを正しく身に付ける必要がある

◆テクニカルライティング

- ・文章の目的を明示する→ターゲットリーダーも特定する
- ・パラグラフライティング→タイトル、トピック文とサポート文

◆パラグラフとは

- ・段落
- ・1つの考え(トピック)を論理的に展開、説明したもの
- ・わかりやすい構成
トピック文→トピックサポート→結論文(トピック文)
- ・起承転結はビジネス文には使わない→起承転結では、結論が最後に来る

◆パラグラフと文章

- ・テーマをサポートするパラグラフ
- ・良い文章は速読を可能にする→トピック文をたどる

◆パラグラフライティング

- ・レポートのまとめ方
文章の目的を明確にする
文章/パラグラフの論理構成と展開パターンを考える
1パラグラフ1トピックを心がける
1パラグラフは約5つの文で構成する
トピック文を明示し、それをサポート文で補う

◆パラグラフの論理構成 ライティングツールを活用する

- ・統一性と一貫性+過不足ない説明

◆情報を論理的に整理する(パラレリズム)

- ・2つ以上のアイデアが「並列」であるのなら、それを1組の「並列」の文法構造で表現するとわかりやすくなる。
- ・リズムを大切に(参考:リンカーンの有名な言葉)
- ・可読性を考慮する→読めるかどうかではなく、すぐに理解できるか?
- ・ちょっとした工夫で可読性を上げられる→理解を促進するために構造的に、文法的に明示する
構造上の手がかり、多少の冗長性を犠牲に
- ・構造的に同じにしてわかりやすくする
- ・キーワードは一貫性をもって仕様することで現在の話題、論点を明快に示すことができる

◆漢字とかなの書き分け

- ・キーワードになれる名詞、動詞は漢字
- ・単独で意味を持たない品詞はひらがな
形式名詞や補助動詞、補助形容詞はひらがなで

◆遷移語(接続語)

- ・接続語句は論理の流れを明示する、いわばフラッグ

◆行為は動詞で表現する→行為を名詞化しない

行為の名詞化は冗長でもったいぶったお役所言葉

◆必須情報と随意情報をわける

- ・必須情報に随意情報は含めない
- ・補足説明や付加情報などの随意情報が多すぎて、必要な説明がテキストに埋もれてしまう
- ・必須情報が先

◆説明する順序に注意する

- ・全般的なことから詳細へ
- ・重要なものから書く

- ・わかりやすいものから書く
- ・既知のものから未知へ
- ・空間の論理順に書く
- ・時系列に書く

※一度にすべてを考慮する訳ではない

◆修飾関係を明示して、複数の解釈ができないようにする

「英文テクニカルライティング72の鉄則」に記載

◆トピック志向とタスク志向一何を主語(視点)にするかという問題

- ・アカデミーライティング: トピック (モノ)
あなたはトピックを目立たせたい
- ・ビジネスライティング: タスク (コト)
ユーザーは自分の「やりたいコト」を理解したい
- ・ライティングチェックリストで判断する

◆国際共通語としての英語

Amazonで「英文テクニカルライティング72の鉄則」を検索してください

(講義の感想)

今回の講義は品質管理という分野に限らず、「相手に伝わる文章の書き方」について、英文の構造を参考にしながら、わかりやすく講義いただきました。個人的に英語を学習していますが、「言われてみると確かにそうだな」という内容が多く、今後の論文作成にも即活用できるエッセンスが多く含まれていました。また、普段英語を学習していない方にも、とてもわかりやすく、説得力がある講義でした。ご紹介いただいた「英文テクニカルライティング72の鉄則」については、是非読んでみたいと思います。

大変有意義な講義、ありがとうございました。

以上